

**産業構造審議会グリーンイノベーションプロジェクト部会  
産業構造転換分野ワーキンググループ（第 32 回） 議事要旨**

- 日時：令和 7 年 5 月 26 日（月）16 時 20 分～17 時 17 分
- 場所：経済産業省別館 17 階第 1 特別会議室＋オンライン（Webex）
- 出席者：（委員）白坂座長、稲葉委員、大藺委員、関根委員、高木委員、  
長島委員、林委員、堀井委員  
（オブザーバー）NEDO 西村理事

■ 議題：

- ・次世代デジタルインフラの構築プロジェクトにおける一部事業中止について
  - ・担当課室説明（商務情報政策局 情報産業課）（質疑は非公表）
  - ・実施企業説明（日本ゼオン株式会社）（非公表）
- 総合討議（非公表）
- ・決議

■ 議事要旨：

プロジェクト担当課および日本ゼオン株式会社より、資料 3 及び 4 に基づき説明があり、議論が行われた。事業者からの中止の申し出については、経緯・背景を鑑み、グリーンイノベーション基金事業の基本方針に記載のある、「研究開発開始時点で予測することのできない事由」及び「実施者の責任によらない事情」に該当すると認められ、承認された。委員等からの主な意見は以下のとおり。

- 明確に進捗状況を分析しての判断であり、異論はない。
- 今後の GI 基金事業を推進するにあたり、今回の中止例は参考になる。  
→チャレンジングな取組であればこそ、進捗を随時確認し、中止も含めプロジェクト推進について判断を行うというプロセスが、非常に重要。
- プロジェクト開始時は、スピード感の観点から動作原理が未解明でも推進すべきという判断だったと思われる。他にもそのような例はあるのか。  
→メモリに関していえば、まだ動作原理が十分解明されていない中プロジェクトを開始した事例がある。
- プロジェクト開始時から、問題意識を明確に共有して進めていた点は評価できる。
- もう少し早いタイミングで中止の意思決定を行える可能性はあったか。  
→実験事実を積み上げるために、一定程度の時間が必要であった。関係者も多く、コンセンサスを取りながらの推進であったことから、時間がかかった。
- 最終目標達成に向け、今後どう取り組む方針か。  
→今後については、幹事会社とよく相談する。次回のワーキンググループで方針をお示しするので、そのときにご議論いただきたい。

以上

（お問合せ先）

GXグループ GX投資促進課 エネルギー・環境イノベーション戦略室

電 話：03-3501-1733